

## UCLA ユージ・市岡教授死去

9月1日に亡くなったユージ・市岡教授(66才)の功績を讃えて、カリフォルニア大学ロサンゼルス校が10月19日に追悼式を開催した。30人の友人、知人が教授との思い出をそれぞれに語ったり、遠くペンシルベニア州や日本の名古屋からもスピーカーがあり、教授の偉大さが偲ばれた。始めてアジア・アメリカン(アメリカにいる東洋人からアジア系アメリカ人と改称)やアメラジアンという言葉を生み出し、一般に普及させたのも教授の功績によるものである。いわゆる象牙の塔に高く居留する歴史学者ではなく、どんな罪人にも平等に裁判を受ける権利があると主張し、多くの大学院生や留学生達の親替りの世話をしてきたことは有名なエピソードとなっている。教授夫人は中国系である。市岡教授は1999年から一年間東大の客員教授でもあった。

カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校のベン・小橋川教授が1970年代大学院生の頃、市岡教授を沖縄県人会に紹介して依頼県人会会員達との友好が続いた。小橋川教授より8才年長の市岡教授のことをよき友人で良き先輩であったと、電話で話してくれた。市岡教授は一メートル八十センチを越す長身で、ビールをこよなく愛し、バスケットボールに優れ、競馬に興じた気さくな人であった。沖縄の歴史に関心を寄せ、第二次大戦で被った悲劇に心を痛め、沖縄系人の良き理解者でもあったとも付け加えた。小橋川教授の父親で元県人会会長の小橋川次郎氏(本部町伊豆味出身)、元会長の金城武男氏(金武町出身)、「帰米二世」の著作で知られる作家・山城正雄氏などとも広い交際があった。最近の日系紙・羅府新報に山城正雄さんは「市岡雄二教授のこと」と題して、コラムを書いている。「教授が帰米二世のシンポジウムを計画していたのは2000年の秋頃だったが、咽喉ガンが悪化して帰らぬ人となった。惜別の感ひとしおである」。市岡教授のおもなる著書として、「一世」、「埋もれた過去 I II」、「アメラジアン・ジャーナル」などがある。

北米沖縄人史英語版のカバーに推薦状を書いたり、その出版をUCLAで担当するなど市岡教授の功績は県人会にとっても大であった。県人会理事会はUCLAの市岡基金に寄附をすることに決定した。

当銘貞夫